

# ファザーリング全国フォーラム in 北海道

## 開催報告書

参加・聴講  
**無料**  
要申込

# ファザーリング 全国フォーラム in 北海道

もっと自由に。新しい働き方、新しい子育てを北海道から。

2022年 11月	<b>25日</b> 金	時間 13:00~17:00
場所	<b>かでの2・7</b> 札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル	

2022年 11月	<b>26日</b> 土	時間 10:30~17:30
場所	<b>札幌エルプラザ</b> 札幌市北区北8条西3丁目	

## ■実施概要

- ◎日程・会場：2022年11月25日(金)かでの2.7（札幌市中央区北2条西7丁目）  
11月26日(土)札幌エルプラザ（札幌市北区北8条西3丁目28）
- ◎参加対象：企業経営者・管理職、子育て中の方、プレパパママ、学生など
- ◎参加者数
  - ・11月25日（金） 会場：55名（のべ89名）／オンライン：のべ106名
  - ・11月26日（土） 会場：200名（のべ285名）／オンライン：のべ72名
- ◎参加費：無料（一部材料代が必要な分科会あり）
- ◎主催：①北海道  
②ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会  
（特定非営利活動法人ファザーリング・ジャパン、ファザーリング・ジャパン北海道、一般社団法人相互支援団体かえりん、パパ育休プロジェクト、こどもカンパニー株式会社、NPO法人E-LINK）
- ◎後援：内閣府、厚生労働省、財務省、日本労働組合総連合会(連合)、  
にっぽん子ども・子育て応援団、札幌市
- ◎協力：札幌市男女共同参画センター
- ◎協賛：株式会社ピエトロ、しゅふきた、こどもカンパニー株式会社、パパするべ、  
株式会社恵和ビジネス、マルコメ株式会社（順不同）

### 大会スローガン

**もっと自由に。  
新しい働き方、新しい子育てを北海道から。**

## ■プログラム

◎11月25日(金) <主に企業の方向け>

【基調講演 I・パネルディスカッション】13:15～サイボウズ青野氏<主催：北海道>

【分科会1】15:30～道内自治体の「育休」と「働き方改革」事例発表<主催：FJ北海道>

【分科会2】15:30～みんなで考えよう！日本と家庭のこれからのお金のはなし  
<主催：財務省>

【分科会3】15:30～女性が生き生きと活躍できる職場とは？<主催：FJマザーリングPJ>

◎11月26日(土) <主に一般の方向け>

【分科会4】10:30～学生とはなす。働くこと。暮らすこと。子育てすること。

<主催：実行委員会、札幌市>

【分科会5】10:30～伝えてますか？帝王切開出産の準備&産後のサポート～パパ編～

<主催：FJカイザーパパPJ>

【分科会6】10:30～親子で作ろう！親子で遊ぼう！「木育」体験ひろば

<主催：実行委員会>

【分科会7】13:00～イマドキ部下や学生たちが求めるボス像とは～

「押しボスプロジェクト」に見る、これからの上司と部下・チームのカタチ

<主催：FJイクボスPJ>

【分科会8】13:00～「思春期こそ社会参画を」～子どもが諸問題から脱却するヒケツとは～

<主催：FJコチカラPJ>

【分科会9】13:00～男性の育児休業のススメ～法改正のポイントと育休取得のメリットや  
取組事例～<主催：厚労省>

【分科会10】14:30～パパ写真講座「家族の笑顔の増やし方～パパが写真をはじめたら～

<主催：FJ>

【分科会11】14:30～サステナパパPJ<主催：FJサステナパパPJ>

【分科会12】14:30～男性育休って実際どうなの？～経験者と語る座談会～

<主催：パパ育休プロジェクト>

【基調講演 II】16:00～高室典子先生<主催：実行委員会>

【SC1】10:30～第26回おさがりくるりん（おさがり交換会）

<主催：一般社団法人相互支援団体 かえりん>

【SC2】10:15～洋食屋さんのチーズハンバーグを親子で作ろう！トモシヨク料理教室

（協力：マルコメ）<主催：FJトモシヨクPJ>

【SC3】12:10～パパ's 絵本ライブ <主催：パパ's 絵本プロジェクト>

【SC4】14:30～いとりどりダンスプロジェクト<主催：キッカケノバ>

## 開会式

【日時】2022年11月25日（金）13:00～13:10

【場所】かでの2・7かでのホール/オンライン

【主催団体名】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会、北海道

【登壇者】

安藤 哲也（ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員長）

鈴木 直道（北海道知事）

【実施内容】

大会主催者代表である安藤実行委員長による主催者挨拶、鈴木知事による挨拶、安藤実行委員長と鈴木知事の写真撮影（北海道イクボス共同宣言を背景として投影）、北海道イクボス共同宣言の説明を行った。



## 基調講演

【日時】2022年11月25日（金）13:15～14:00

【場所】かでの2・7かでのホール/オンライン

【主催団体名】ファザリング全国フォーラム in 北海道実行委員会、北海道

【登壇者】

青野 慶久（サイボウズ株式会社 代表取締役社長）

### 【実施内容】

サイボウズ(株)代表取締役社長である青野氏から「100人100通りの働き方で『男性の家庭進出』を」という題目で基調講演を行った。

主な内容としては以下のとおり。

- ・ 自社の離職率が上昇していることに危機感を覚え、社員の意見に耳を傾け（テレワークを可能にしたい、残業をしたくない等）、社内制度の改革を行っていった結果、離職率の低下につながった。
- ・ 自身が育児休業を取った経験（育児の大変さや、子育てを大事にしなければ市場が縮小していくことに気付いた）。
- ・ 育児休業を取りやすくするためには、チーム戦で仕事に当たる必要がある。そのためには、社員間の「オープンな情報共有」や、子育てを大切に作る風土を育てて行くこと、時には社員が他の社員の子ども面倒を見たり等が必要。



## パネルディスカッション

【日時】2022年11月25日（金）14:05～15:05

【場所】かでの2・7かでのホール/オンライン

【主催団体名】ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員会、北海道

【登壇者】

安藤 哲也（ファザーリング全国フォーラム in 北海道実行委員長）

青野 慶久（サイボウズ株式会社代表取締役社長）

小森 利通（株式会社ズコーシャ 総務部長）

石山 玲子（北海道労働局 雇用環境・均等部長）

中島 俊明（北海道経済部長）

太細 真弥（フリーアナウンサー）

【実施内容】

前半は「企業経営者から見た男性の育児休業取得」、後半は「取得経験者からみた男性の育児取得」をそれぞれテーマとし、パネルディスカッションを行った。

<前半の主な話題>

- ・小森部長から、自社の取組について説明（フレックスタイム勤務、在宅勤務制度の導入や、制度作りの段階から社内の意識啓発に力を入れたこと、さらにはこのような取組が社外での良いPRとなり、求職者が増加したことや、女性技術者の管理職登用にもつながっている。）
- ・石山部長からは国の支援制度を説明。
- ・中島部長からは道の企業向けの取組を説明

<後半の主な話題>

- ・石山部長からは国の今後の目標などについて説明。
- ・中島部長からは道の個人向けの取組を説明



## 分科会 1 道内自治体の「育休」と「働き方改革」事例発表トークセッション

【日時】2022年11月25日（金）15:30～17:00

【場所】かでの2・7 710会議室

【主催団体名】ファザーリング・ジャパン北海道

【登壇者】

手島 旭（芽室町町長（町長イクボス宣言：2019年10月））

大澤 知恵（苫小牧市 総務部行政監理室主査（副市長などイクボス宣言：2015年7月））

石川 海（苫小牧市 育休取得経験職員）

片山 学（千歳市総務部主幹（働き方改革推進担当）（市長イクボス宣言：2017年1月））

安藤 哲也（NPO 法人ファザーリング・ジャパン 代表理事）

太細 真弥（フリーアナウンサー／ファザーリング・ジャパン北海道メンバー）

【実施内容】

地方自治体は働き方改革とどう向き合っていくのか～イクボス宣言した自治体の現在と未来～

### ▼3つの自治体の働き方改革 取り組み事例発表

芽室町	町長自ら理想の地域と行政組織の関係図を作成。働き方改革の必要性・イクボス宣言の意味を細かく説明。町長・副町長の優先的有給取得日を設定→職員の時間外勤務減少／有給取得率増加。有給の過ごし方の助言「地域活動に参加するように」地域づくりを見据えた働き方改革意識 ★時代に合わせ変化するトップが理想、ボスの本気度が組織を変える
千歳市	ノー残業強化月間を設定し、毎週水曜日は全員定時退庁を促す。この日は担当者が庁内を見回り、所属長への指導ノー残業デーを設定するだけでなく、業務効率の改善を検討するところまで行動を促すために実施
苫小牧市	希望者に対し、メンター／メンティ制度の導入。9か月間ペア研修。理想の働き方とライフスタイルを実現するため。メンターは育児経験と2部署以上の異動経験がある30歳以上の職員→今後は男性の利用活発に

### ▼育休取得率向上への取り組みと男性育休取得者の声

苫小牧 石川さん 2児のパパ 30代前半	第一子の時は1か月取得「あつという間に感じた」→第二子の時に1年間取得。“健康こども部こども支援課”所属時ということもあり取得は歓迎ムードだった。パートナーは男性の育休取得に驚きの声。誰かが抜けても大丈夫な職場づくりの重要性を実感。 安藤さん「次は看護休暇の取得を。制度は使われないと無くなってしまう」
----------------------------	--

安藤代表理事からメッセージ「働き方改革は生き方改革。人生100年時代。働き方改革は個人が『自分の人生設計をどうしていくか？』を考えるための手段でしかない。職員の働き方改革に向き合う＝一人ひとりの生き方改革に向き合っていることだと意識してほしい」



## 分科会 2 みんなで考えよう！日本と家庭のこれからのお金のはなし

【日時】2022年11月25日（金）15：30～17：00

【場所】かでの2・7 730会議室

【主催団体名】財務省

【登壇者】

塚越 学（ファザーリング・ジャパン理事/公認会計士）

高祖 常子（ファザーリング・ジャパン理事/マザーリングプロジェクトリーダー）

星野 大輝（財務省大臣官房文書課課長補佐）

渡邊 裕美子（金融庁総合政策局総合政策課課長補佐）

【実施内容】

塚越氏司会の下、財務省及び金融庁の職員からの説明及びディスカッション等を実施。日本の財政状況や財政教育の取組、金融リテラシーの重要性や金融教育の取組等についての説明のほか、実際に北海道財務局が学校で財政教育プログラムを行った際のこどもたちの反応や写真を紹介したり、金融に関するクイズを交えたりしながら、和やかに行われた。

### ① FJ と財務省のこれまでの取組みについて紹介（高祖氏）

FJのマザーリングプロジェクトリーダーとして、財務省と同プロジェクトとの連携した取組状況を紹介。

### ② 「日本の財政と、財政教育のいま」（星野氏）

財政とはなにか、日本の財政の現状とその課題等について、子どもたちに説明している資料を用いて紹介。日本の財政状況は、歳出が税収を上回り続け、その差を埋めるために国は借金をしており、その大きな要因として少子高齢化に伴う社会保障費の増があること、現在はこうした課題に対応するため、「全世代型」の社会保障制度への転換が図られていること等を説明。また、財政は私たち一人ひとりに密接に関係しており、学校現場で財務局が取り組んでいる「財政教育プログラム」を紹介し、実際の子供たちのリアクション等に触れながら、大人も財政について考えていく必要性等を説明した。

### ③ 「金融教育のいま」（渡邊氏）

本年4月より高校の家庭科において金融に関する内容の充実が図られた。最近よく耳にする「金融リテラシー」とはなにか、「金融教育」はなぜ必要なのか、そして今の子どもたちはどのような金融教育を受けているのか、をメインテーマに講演を行った。大人も知っておきたいお金の使い方や資産形成についても解説したほか、家庭で子どもと「お金」について話す時に使える様々なコンテンツについても紹介を行った。

### ④ ディスカッション&質疑応答





### 分科会 3 女性が生き生きと活躍できる職場とは？

【日時】2022年11月25日（金）15：30～17：00

【場所】かでの2・7 1070会議室

【主催団体名】FJマザーリング・プロジェクト

【登壇者】

岩淵 香織（株式会社北海道アルバイト情報社 営業部事業部長）

今 啓亮（マルゴト株式会社 代表取締役）

星野 恵（一般社団法人相互支援団体かえりん 代表理事）

林田 香織（ワンダライフLLP 代表／NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事）

高祖 常子（キャリアコンサルタント／NPO 法人ファザーリング・ジャパン理事）



【実施内容】

#### プログラム

- ・マザーリングプロジェクト紹介
- ・岩淵氏より、2児を育てながら、時短勤務も経験しながら管理職になった体験談。
- ・林田氏より、「女性」も多様になってきていること、育児期社員においてはパパとママの差がなくなってきたことなど、共働き率、育児期女性の有職者率、夫婦の話し合いとキャリアの捉え方などのデータを交えて紹介。
- ・高祖氏より、令和夫婦の基本は共働き、令和ママは男性育休取得に大賛成などのデータ紹介や、家事育児の男女平等と出生率との関係、出産後の女性の所得は世界的に見ても低いという情報提供を行い、働く女性の自己決定について問題提起。

#### パネルディスカッション

- ・今啓亮氏より、8割が女性従業員である会社の代表として、フルリモートで働く会社を運営することについて。星野恵氏より、4児の母として育児環境を変えたいと取り組んできたことなどを紹介いただく。
- ・その後、登壇者5人でパネルディスカッション（進行・高祖氏）を行った。主なテーマは、「女性が働くときの壁は？」「女性が働きやすい職場とは」「女性管理職を増やすには」「誰もが働きやすい職場環境」「企業が目指すべき方向とは？」など。
- ・岩淵氏の、子育て期は管理職から降りて働く選択をしたこと、さらにその後管理職への復帰の経験を通して、子育て期の働き方と働き方の選択について考えた。さらに、営業は個人目標を立てず、チームで目標を追求していく形を実践しているという話には、働きやすさと目標追及の両面からの利点があることを教えていただく。
- ・今氏は、自身の子どもが生まれるタイミングで起業し、自分の働きやすさを追求したところ、フルリモートになった経験談を紹介。さらに仕事拡大にあたって求人すると、女性従業員が8割になったことなどを伺い、男性自身の働きやすい職場作りは、女性も働きやすい職場になることを実践を通して示していただいた。
- ・星野氏は、前職が営業で、仕事復帰後の個人目標の達成などが難しいと判断。その後、起業し、子育て環境の改善などをベースに様々な事業に取り組んでいることを紹介いただき、ライフチェンジについて考えるヒントをいただいた。